



『……！離しなさい……の……！』

おち……

ふ……

ふ……

『こんな触手に捕らわれるとは、不覚……ですわ……！』

おち……



『……ふふふ』

『……か……この触手……』



『……』

……!

はぁ

はぁ

……

『……! この私を……!』

「っ!...や、やめなさいっ!」
「そこは触手如きが触れていい場所じゃ...!」

『ふふふふふふ』

はあ

はあ

ふふふ

ちゅ

「あっ……あ……っ」
「嫌……っ待って……だめっ……」

「あ……っ」

ひん……

あ、

あ、

130!
130!
130!

130!
130!
130!



『……♡……♡』

『触手が……私の膣内に……挿入って……♡』





「♡♡♡♡♡♡♡♡の動くんじや♡♡♡♡♡♡♡♡なれですわよ♡♡♡♡♡♡♡♡」

♡♡♡♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡♡♡♡

「こんなっ…触手如きにつこの私が♡♡♡♡♡♡♡♡」

Синус

15th Ave

45300

13



Հիմա է

「こゝこの触手…っ♡うゝ上手い…っ♡」
「(的確に…っ♡私の感じるところを突いてくる…っ♡)」

1510

「あっ…♡あっ♡うっ♡」
「待っ…で…♡やめっ♡あっ♡あっ♡駄目…っだめ…えっ♡」

「膣内でっ膨らんでっ♡うゝ動きがっ♡小刻みにっ♡」
「だめ…っ♡射精される…っ♡膣内射精…される…っ♡」

「イッパッ♡」

「イッパッ♡」

『あんっ♡はっ♡あんっ♡やっ♡あっ♡ああっ♡』

んっ♡んっ♡

んっ♡んっ♡

『だめっ♡ふやっ♡あっ♡だめっ♡だめっ♡やめてっ♡ふやあっ♡』

んっ♡

んっ♡

っ♡

っ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡









フキキキ

~~~~~♡

フキ

フキ♡



「……♡」  
「……こんなに……注がれて……」

はー

はー

「……なんという屈辱……なの……♡」

……











































































